# 第３５回　　西宮市子ども・子育て会議

# 会　　議　　録

■日　時：令和４年(2022年)１月28日(金)

■場　所：西宮市役所本庁舎８階　813会議室

## 会議次第

議　　事

子ども・子育て支援プランの評価について

・重点施策４　妊娠期から乳幼児期の子育てへの支援

・重点施策５　子育ての不安・負担の軽減

・重点施策８　ワーク・ライフ・バランスの推進

## 会議概要

〔午後２時30分　開会〕

**議事　子ども・子育て支援プランの評価について**
**重点施策４　妊娠期から乳幼児期の子育てへの支援**

○委　員　正直、すべてＢ評価ということに非常に違和感を覚えた。というのは、例えば母子健康手帳の交付の面談率は、令和元年度に比べて、コロナ禍であるにもかかわらず93.5％と大いに伸びているし、妊婦健康診査費用助成事業も、目標値に比べてそれなりに結果を出しているのではないかと思う。ましてや、民生委員の方は、このコロナ禍で非常に大変だったと思うが、その状況下で、確かに100％ではないけれども、健やか赤ちゃん訪問事業も99.6％であり、しかも100％を目指すためにアフターフォローもされるなどかなりのご努力があり、結果としては最終全員をフォローすると言われているのにＢというのは、いやいや、Ａじゃないのかと思った。乳幼児健診も個別で対応されたり、令和６年度の目標値に対しては達成しているけれどもＢ評価とされている要因としては、多分、昨年度評価の部分が十分できていないところがあるのかなと思うが、そこの違和感はある。

２点目は、細かくなるが、養育支援ネットと医療機関の連携について、文書でやり取りをされていると説明があったが、今日、文書で記録されたものが、必要なときにさっと書類が出るところに違和感を覚えた。

それから、次の重点施策５につながるかもしれないが、市でも市政ニュースや母子手帳でインフォメーションされていると思うが、この時代で大事なのは、それに対しての応答、やり取りがあるということで、ＬＩＮＥを活用されるようだが、今後、双方のやり取りが円滑に進む方法は考えられているのか。産後ケア事業についても、資料別冊の９ページにあるとおり、オンライン、電話相談など安心してできる方向を検討するとあるが、どのような検討がされているか、そのコミュニケーションの方法についてお聞きする。

○会　長　１つ目はＢ評価について、いろいろご苦労の中、数値あるいは事業としてはもう少しよい評価をしてもいいのではないかとのご指摘である。

２点目は、養育支援ネットが文書で情報提供がなされているとのご指摘があった。

それから、情報提供、コミュニケーションの方法について、今後どのように考えているのか、このあたりについて説明をお願いする。

●事務局　１点目のご意見に関して、担当課の励みになるご意見をいただき、感謝する。今回、Ａ～Ｄの４段階の評価にあたり、Ａをつける場合、目標値を達成もしくは上回るという少し高い基準を設けたため、各担当課ではどうしてもＡがつけづらくなったという印象はある。このあたりは来年度に向けて改めて検討していきたい。

●事務局　養育支援ネットについてだが、医療機関で受診された妊婦さんやお子さんで気になる方がいた場合、病院等から保健所に向けて文書、これは県で統一された様式の文書が送られてくるが、それについてはご本人の了承を得て送られてくる。個人情報なので扱いにも留意をしているが、ご本人が許可されなくても気になる方はいるので、そういう方については随時病院からお電話でご連絡いただくこともある。

○委　員　この時代に文書に起こして、また文書で送ってという手間がかかると、支援が必要なところが遅れたり、情報の蓄積としてもデータに移らなくなることもあるので、情報の取扱いや目的に応じた形になっていればいいなと思ったので、これはいろいろなルールもあることだとは思うが、そのような視点もあるのではないかと一言だけ言わせていただいた。

○委　員　産後ケア事業で産後４か月までの母子を対象にとあるが、なぜ産後４か月なのか、何か理由があれば教えてほしい。それから、４か月を過ぎたらもう駄目なのか、あるいはほかで救っていただく手だてはあるのか。

●事務局　この産後ケアが西宮で行われたのが平成30年12月からである。厚生労働省の補助事業を活用し、産後間もない産婦・母子についての支援として産後ケア事業をはじめている。その兼ね合いで現在もこの状況で実施しているが、改正もされたので、今後新たな拡充に向けて検討しているところである。

それと、産後ケア事業では助産師が家庭訪問をしてケアを含めた支援を行っているが、４か月以降のお子様については各地区担当の保健師が継続して訪問をしている。必要時は助産師と同行訪問もしている。

○委　員　乳幼児健診について、１歳６か月から３歳の間はすごく間が開くので、家庭訪問や予防接種で把握されているとのことだが、全く把握していない方は何パーセントいるのか。それと、全く把握していない方たちの今後の対応について教えてほしい。

●事務局　１歳６か月健診については、未受診の方もいるが、その後の状況確認で100％把握していて、未把握の方はいない状況である。これは受診期間が２歳までになっているので、２歳までの間に何度か受診勧奨をしているのと、２歳２か月の時点で未受診者リストが上がってくるので、その方全員に文書を送る。文書だけではなく、目視確認をするようにしているので、必ずどこかの医療機関もしくは保健師訪問等で把握している。

○委　員　予期しない妊娠の相談ができるように、ホームページ上で兵庫県の「妊娠ＳＯＳ相談」を案内されているとのことだが、その利用者数が分かれば教えてほしい。実際に相談が入っているのか。

●事務局　予期しない妊娠の方は、母子健康手帳の配付のときにも状況等を確認している。申し訳ないが、件数は把握していないのではっきりしたことは言えないが、数名いる。

利用状況については、県が実施しているものなので、今現在把握していない。

○委　員　件数は分からないとのことだが、誰にも相談できない、どこに相談していいか分からない人を救えるようにするべきではないかと思うので、県の窓口があるのであれば、その相談がどれぐらいあるのか、そこから何かにつなげる手だてがあるのかについても注目していかないといけないのではないかと思う。

●事務局　県のＳＯＳにかけられる方は、住所や氏名を名乗る方は少なくて、どこの所在かを把握することはなかなか難しいところである。ただ、出産支援等、妊娠の継続に支援が必要なので、何とかお母様に了解していただくようにアドバイスを行って地域保健課につながったケースも１、２件ある。

○委　員　私も、今回、自己評価が全部Ｂということには同じく違和感がある。コロナ禍で実際ママたちからは、特に産後ケアにもっと力を入れてもらえたらという声はよく聞いた。産後ケア事業の利用者は66名とのことだが、この利用者をもっと増やしていこうと思うのなら、民間やＮＰＯですばらしい活動をされている団体の力を借りていかないといけないのではないかと思う。この事業はどの部署でどのような対応をされての66名なのか。今後、自己評価をＡにするためにどのようにやっていこうと考えられているのかを教えてほしい。

●事務局　産後ケア事業は、先ほど申したように、平成30年12月から会計年度任用職員１名で始まったこともあり、本当にハイリスクの方、先ほどの養育支援ネットに挙げられるような方を対象に始まった事業である。翌年に会計年度任用職員の助産師を２名追加し、今現在３名で運用している。当初どのぐらいの数に伸びるか分からなかったために、31年度も養育支援ネットレベルでしていたが、令和２年度からは、助産師も定着してきたので拡充を心がけていたが、医療機関や広報がうまく回っていなかったため、こちらの対応できる件数に満たないような実績であった。ただ、令和３年度は、令和２年10月に市政ニュースの一面に大きく上げたこともあり、利用者がぐんと増えて、今現在、４月から12月で247件の訪問をしているので、月平均27件ぐらいである。今はおおむね４か月未満を対象としている。

このように必要な方に必要なサービスが届くように、当課の会計年度任用職員の助産師３名で運営しているが、これ以上のキャパをこなしていくためには委託も検討していかなければならないと思う。

○委　員　今はハイリスクな方を中心に動かれているとのことで、まずそこが大事なところだと思う。ただ、このコロナ禍でリスクを抱えていなくてもしんどくなっているお母さんたちはとても多くなっているので、助産師さんだけでは大変なので、民間の力も合わせて何か補助的なことができてどんどん広がっていって、これがＡ評価になっていけばと感じた。

○委　員　資料集別冊の育児支援家庭訪問事業の対応状況等で、「引き続き、市ホームページや子育てガイド等の各種媒体を活用し、広報に努めていく」と記載されているが、

保育園や幼稚園の掲示板にもこの重点施策に上がった事業を紹介する形で掲示してもらえるとありがたいと思う。というのも、自ら積極的に資料を見て情報収集できる人もいるけれども、それすらしんどくてできない人もいると思うし、市政ニュースをなくしてしまう人もいるかもしれないが、掲示板だと毎日の送り迎えのときに見られるので情報が入ってきやすいため、今後の対策として掲示板を活用していただけたらうれしい。

●事務局　育児支援家庭訪問事業の広報については、市のホームページや子育てガイドに掲載しているが、それ以外にも、母子手帳の発行時に保健師が面接を行い、親族支援が望めない場合など心配な様子があればヘルパーの利用を積極的に周知している。それ以外の周知、広報の方法については今後の検討としたいと思う。

○会　長　情報にアクセスしやすい媒体があるので、そこにどう情報を広げていけるかだと思う。

○委　員　生まれてきてからの支援が多いが、母子手帳をもらった時点では元気に生まれてくるか分からない状況もあるかと思う。初めての妊娠では３割の人が流産を経験しているというデータもあるので、そういった方たちは切れ目ない支援の中のどこかに入ることはできるのか。

●事務局　母子健康手帳発行時に妊産婦健診の受診券をお渡ししている。その受診券が不要になるとお返しいただくこともあるので、その中で支援の必要な方には面接、ご相談等を行っている。把握できなかった方も中にはいるので、そのあたりは少し気になるところである。

●事務局　妊娠中の支援については、育児支援家庭訪問事業で切迫早産などのある妊婦はヘルパー利用が可能になっているので、支援の一端になっているかと思う。

○委　員　切迫流産の方はヘルパーが使えることは知っていたが、そこまで至っていない人たちの支援もあればいいなと思うので、今後ご検討いただきたい。

○会　長　切れ目ない支援というのは、いろいろな方がいるので、本当にその方々皆さんを支援できているのかはすごく重要だと思う。

○副会長　西宮市はすごく頑張っているなと思うのが健やか赤ちゃん訪問事業である。国がやっているいわゆる乳児家庭全戸訪問事業は４か月までのお子さんのいる家庭をすべて訪問しましょうという事業だが、そこを西宮市ではあえて２か月と設定して、２か月早いということはそれだけ短期間で訪問しないといけないので大変だと思うが、しかもその把握率が100％に近い。全国的にも100％というのはなかなか難しく、特に都心部では難しいと言われている。２か月で全部の家庭を把握することが今後の支援につなげていく上ですごく大事だと思うので、とても評価できるところだと思う。正直びっくりした。

○委　員　内容ではないのだが、対応状況等で「検討していく」という言葉がよく出ている。これは、検討して結論を出すという意味なのか。

　それから、よく話題になるＺ世代、今25歳ぐらいまでの人たちがこれから子育てにどんどん参加していくと思うが、Ｚ世代の人たちは生まれたときからインターネットがあって、調べ物をするときは、我々のようにグーグルやヤフーで検索するのではなくて、最初からユーチューブで調べて、しかもほとんどがスマホでやってしまうようなので、

情報の発信の仕方を考えるときにその世代の人も一緒に入って考えたらどうかと思うが、いかがか。
○会　長　「検討していく」という表現について、●●委員、具体的にこの事業についてというものはあるか。
○委　員　「妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の充実」で「健診時のコンシェルジュの相談ブース設置など検討していく」、「産後ケア事業」で「近隣市の状況を参考に実施を検討していく」などである。「準備をすすめている」、「配慮していく」、「対応していく」という言葉は、そのまま実施するのだろうなと思うのだが、「検討していく」、これはお役所の言葉かもしれないが、実際どのように検討していくのか、あるいは実施できるのかどうかをお聞きしたい。
●事務局　「健診時のコンシェルジュの相談ブース設置などの検討していく」だが、「検討」としているのは、基本的に実現していく方向で今考えている。実際に実施するにしても動線や配置などについてどういう形で実現できるのかを含めて、それをやっていくという前向きなところで「検討していく」と書かせていただいた。
●事務局　産後ケア事業についても、キャパが大分詰まってきているので、拡充していく方向で検討している。
●事務局　各担当課としては進めていきたい思いを持ちながらも、様々な事務的な課題や予算の問題もあるので、現時点でやっていくとはっきり言いづらい部分があるため、「検討していく」という末尾が増えているような状況である。この子ども・子育て会議でいただいたご意見も、例えば明日にとか来年度に直ちに対応できるものもあれば、期間をかけて実現に向けて進めていくものもあるので、そのあたりはご了承いただきたいと思う。
　それから、広報に関しては、この分野における課題にとどまらず、すべての市の施策に言えることだと思う。一般的に市で広報するのは、市政ニュース、市の広報紙、ホームページがベースになるが、ＬＩＮＥを使った広報も行い、現世代に極力追いつくように心がけて広報しているが、行政の発信に関して無関心な世代もあるので、限界はあるとは思うが、様々な工夫を凝らしながら広報の充実に努めていきたいと考えている。

**重点施策５　子育ての不安・負担の軽減**

○副会長　２点質問がある。１つ目は、①「成果指標」の「子育てに関して不安や負担等を感じる人の割合」の調査対象はどういう人なのか。
　２つ目は、子育てひろばの運営状況だが、去年に引き続き、今年はさらにオミクロンというもっと感染しやすいコロナがはやっていて、皆さん運営に頭を抱えておられると思うので、市からこういうふうにしたほうがいいなどの指針みたいなものはあるのか。
●事務局　１つ目の調査対象についてだが、計画を策定する際に子育て世代を対象としたアンケート調査を行っていて、西宮市にお住まいの就学前児童の保護者を無作為で抽出し、大体5,000人から6,000人程度のアンケート結果がこの結果となっている。
●事務局　２つ目の指針については、明確に指針というわけではないが、子育て総合セ

ンターのサロンで実施している取組について周知をしている。手指消毒、手洗いの実施、検温という基本的なことを含めて、通常、運営にあたっては常時換気を行ったり、密を避けるように、イベントの実施にあたってはそれぞれの拠点で十分検討いただきたいとお願いしているところである。

○副会長　１つ目に関して、就学前児童は０～５歳までいるし、例えば１人目と２人目のお子さんでは不安の状況は違って、第一子の乳幼児期は不安のピークとなり、３歳ぐらいになって言葉をしゃべるようになると不安が減る人もいれば、逆に言葉が遅いなどで不安が増す方もいると思うので、５歳までを一気に見ていいのか、指標としては少しどうなのかなと思った。０・１・２歳と３・４・５歳では施策の対象が違うので、それも見られてもいいのではないかと思った。

　２つ目のひろばに関しては、受入人数は何人までにしなさいとか、滞在は１時間までとか、そのような具体的な指標は示していないのか。何をしたら安全というのが分からないから問題なのだが、ひろばの人からしてみれば何かあれば少しは安心できるかと思う。

●事務局　手指消毒、検温は当然のこととして、ひろばの運営にあたっては換気と密を避けるということ、もちろん人数制限についても、これは各施設によって広さが違うので明確に何人までとはお示しできていないが、そこは十分に配慮いただいてとお伝えしている。人数制限は、特にイベントなどを実施する場合には密にならないように気をつけていただくようにということはお示ししている。

○会　長　調査については何かあるか。

●事務局　今現在、計画の中で示している指標は０～５歳の全体の割合になるが、アンケートの中ではもちろんお答えいただいた方のお子さんの年齢は把握しているので、この会議が終わった後、それぞれ０歳児の保護者だけで見た場合、１歳児の保護者だけで見た場合というアンケートの分析結果をまた改めて委員の皆様と共有させていただきたいと思う。

○委　員　ひろばに関して、市ではひろばをこれだけやっていると言いつつも、運営の部分は、●●委員のような民間が自分たちの思いの中でやっていたり、私たちのような指定管理でやっていたりといろいろな事業体があるので、こういうルールでしているとは市もなかなか言いにくい部分が多分あるが、市民にとってはそれぞれのひろばは地域にとって大事な場所だし、どのように運営されているかというのは確かに心配であろうから、このようなガイドラインでやるという形は、本当はあったほうがいいのではないか、これはこの２年間を通して感じた。まずは市民の方が安心して使えるようにこのようにしているというインフォメーションは確かにあったほうがいいと思う。

○副会長　市民の方が安全というだけではなく、運営される方も何をすればいいのか分からないことのしんどさもあると思うので、ルールに沿ってやっていれば、これをしているから大丈夫だと利用者の方に説明もしやすくなり、運営者の方が迷ったり、つらい思いをされたりすることも減るのではないかと思う。

○委　員　ガイドラインがあるから安心してやっていける部分はあると思うので、これから先のことも見据えて少しずつ何かつくっていければと思う。

○委　員　２点ある。１点目は、子育てひろばの空白地域について、公募があったのかなかったのか、公募してきた人の条件が合わなかったのか、それとも広報の仕方が悪かったのかというのが１点目である。

２点目は、子育てひろばで陽性者が出た場合、どのように連絡があって、一緒に遊んでいた人にどのように連絡を回すのか。

●事務局　まず１点目のひろばの公募についてだが、まず、公募は２件あった。ただ、１団体は条件が合わず、公募要件を満たしていなかった。もう１団体については、審査をしたが、市の求める基準に達していなかったために選定団体とはならなかった。

次に、２点目のひろばで陽性者が発生した場合だが、基本的に来られた方の連絡先を把握するようにしていて、何かあったときにはこの時間帯にこの方がおられたということで連絡できるような体制を取っている。

○委　員　子育てひろばの公募だが、西宮市内で活動しているＮＰＯやサークル、企業にピンポイントでされてはどうか。他市町ではそのようにピックアップして来るみたいなので、そのようなことができたら公募の内容がもっと広がって子育てひろばをする人も増えてくるのではないかと思う。

●事務局　次年度、予算が承認されれば再度公募しようと思っていて、今回はコロナのこともあり遅い時期に公募を始めてしまったので、できるだけ早い時期から始めることと、今おっしゃっていただいた公募の周知先についても検討していく。

○委　員　３点ある。１点目は、ファミリー・サポート・センター事業について、コロナ禍で保護者の在宅勤務が増えたことで活動件数が減少したとのことだが、在宅のほうが子供がいるのですごく大変だということもあるので、もっと周知すると保護者も働きやすくなるのではないかと思う。保護者の在宅勤務の助けになるような広報は考えられているか。

２点目は、子育て支援のネットワーク化についてである。昨年、オンラインを活用した開催方法を要望したところ、この１年はZoomでサークル交流会もしていただいたので、ここは大きく進化したので大変ありがたいが、ただ、これから先のことを考えると、やはりリアルでもちゃんとつながっていかないといけないと感じている。それぞれの子育てひろばがそれぞれの地域で活動されているが、このサークルがなかなか増えない。その原因の１つは、あおぞら館の研修室が一向に開かないことにあるかと思う。市内の子育てサークルが集まって、その場にいるコンシェルジュにいろいろお話をして、また幅が広がっていくというところが今途絶えているので、研修室がずっと休止していることについて今後どのように考えられているかということと、これからも子育てサークルをご支援いただくことについてどのように考えているのか。

３点目は、子育てひろばの瓦木地区の公募について、実際、瓦木地域で子育て支援をしている団体に聞いたところ、これが出ることは全然知らなかったということで、確かに急に出てくると皆さん準備も何もできなかったと思うので、何か勉強会をしていただくなど、そのような動きはないか。

○会　長　３点あったが、１つ目のファミリー・サポート・センター事業の在宅の方への広報について、いかがか。

●事務局　ファミリー・サポート・センターの在宅の方への広報について、定期的にこちらから会員に向けて広報紙を送る機会にそのようなことも盛り込めればと思う。ただ、こちらもコロナ禍で依頼会員の利便性と提供会員の安心・安全面ですごく苦労しながら活動していて、どういう表現で積極的にそこまで促すような形ができるかは、正直、非常に頭を悩ませているところである。

２点目だが、子育て総合センターの研修室はずっとサークルにご利用いただいており、それが活動の拠点になり、発展につながっていたと思う。今、休止していることとご不便をおかけしていることは申し訳なく思っている。現状を申し上げると、研修を実施する場面でも、今までは１部屋で済んでいたところを２部屋使ってできるだけ広く実施し、コンシェルジュへの相談や子育て相談も研修室を使っていることもあり、研修室をフル稼働で総合センターの機能を果たしている状況である。今、サークルが使った後の消毒の体制やいろいろなことを検討しながら進めているところであり、そちらの整理ができ次第すぐにでもという思いでいる。

支援については、サークルの交流会で●●委員のサークルから皆さんにどういう活動をしているかという情報提供をいただいたことで、ほかのサークルもすごく参考にされて、こういうふうな活動ができるんだということで前向きに検討いただいているかと思う。Zoomという形ではあるが、できるだけ参加を促して、つながりの中での支援を考えていきたいと思う。

３点目の瓦木地区の公募の件だが、公募なので事前にお知らせすることは性質上なかなか難しいところがあるが、来年度は前もってかなり早い段階で、公募の期間も十分取り、多くの団体に準備をしていただけるような形で考えたいと思う。

○委　員　子育て支援のネットワーク化について、実は、私たちのような子育てひろばには意外と情報が下りこない。例えばコロナ禍の中でイベントをやりましょうと言われると、まずイベントをやれるのか、ほかのひろばはどうしているのか、ほかのひろばにはどういった指示や指針が出ているのかなど、短期間にいろいろな情報を集めていろいろなことを考えて試作を繰り返しているので、情報がすごく欲しい。夙川地域では、●●委員がされている香櫨園子育てひろばや、あいあいひろばにお声がけして、年に何回かコンシェルジュも含めて交流会をしているので、ネットワーク化に関して、年１回の地域子育て支援拠点事業連絡協議会という大きなネットワークも大事だが、地域のネットワークをもっと強めていけたらと思う。できたらその中に地域サロンや保健センターも含めて、地域をより強固なものにしていければと思うので、よろしくお願いする。

●事務局　年１回の地域子育て支援拠点事業連絡協議会は、全支援者の方に集まっていただくという機会で、今年度も進めているが、これ以外にも、地区同士、地域ごとに交流できるように、去年、地区別交流会を過去にしたことがあるというお話もした。今考えているのは、子育てひろば同士、夙川地区ではあいあいさん、たんぽっぽさん、香櫨園さんが自主的に集まっていただく取組ができているのですごくいい流れがあるが、ほかの地域では隣同士でも交流がない子育てひろばもあるので、そのあたりについては子育てコンシェルジュが中心となり、それぞれのひろばの見学会をまず初めとして交流を図っていき、その中で保健師も一緒に入っていくような形をどんどんつくっていきたい

と考えている。まず全体のところと、地区ごとの交流が進むように考えていきたいと思う。

年１回の地区の全体会と併せて、今年度、子育てひろばの支援者と地域サロンの支援者が集まる研修を年２回実施することにしていて、そこでも研修の後に交流の機会を設けて、全体会とは別に総合センターでも交流していける機会を考えたいと思う。それも含めて、交流の機会をできるだけ取っていけるような形を考えている。

○委　員　私どもは神戸でも児童館の運営をしているが、神戸の場合は市が非常に大きいので各区に拠点児童館を設けて、その拠点児童館が中心に発達障害の子のプログラムなどを実施していて、そのようにある種ネットワークのハブになるところがリーダーシップを取って会を持っている。それをひろばではなくて例えば児童館でするなどの整備をしていけばうまくネットワークがつくれるのではないかと思う。

**重点施策８　ワーク・ライフ・バランスの推進**

○委　員　このコロナ禍でパパたちもおうちで仕事をするようになり、より地域と密接になったり、小学校の旗当番でもパパ同士が当番になることもあって、こんなときだからこそ父親同士の輪を広げるチャンスでもあるのではないかと思う。今までのパパＤＡＹやパパトーク・プログラムは、どちらかというと、家事や育児をやれと言われるんじゃないかと思って参加しない方もいたかもしれないが、いわゆる地域デビュー、これは定年後からではなくて、パパの時代から地域デビューしておくと、年を重ねた後でも地域に入りやすくなると思う。このコロナ禍を利用して、趣味や好きなことでパパ同士がつながることができたら輪も広がるかと思うので、来年度からこのＤ評価をＣ、Ｂとどんどん上げていくために何かお考えのことはあるか。

●事務局　令和２年度は父子対象イベントを実施できなかったのでＤ評価としているが、今年度は感染対策をして何とかパパＤＡＹを実施できるように進めている。毎月第１土曜日にパパＤＡＹを実施しているが、父親の参加が多く、パパＤＡＹをきっかけとして、その後パパＤＡＹには参加しなくても子育てひろばに来ていただけて、スタッフとも顔なじみになり、こちらもパパのことを把握して、こういう趣味があるんだなということを共通項として理解しながら、パパ同士のつなぎをしていくことはできると思う。

パパＤＡＹ自体はあくまでもきっかけづくりであり、第１土曜日にやっているということでまず第一歩の背中を押すための取組と考えていて、そこに来て楽しかったとかよかったと思っていただいて、その後も継続して土曜日、日曜日にママの代わりにパパが行こうかということをもっと増やしていけたらと考えている。特別に新しいことをするのではなく、パパＤＡＹの中身をもっといいものにしていき、常連になってパパ同士が仲よくなって、子育てひろば以外でも一緒に旅行に行ったり趣味をしたり、そんなつながりをつくっていけるように取り組んでいきたいと思う。

○委　員　今、子育て総合センターのサークルとして活動しているのが６団体のみで、その中でも実際にメンバーの募集をしているのは３団体しかないという現状の中で、ここでパパたちのグループができると面白いのではないかと思う。パパたちのつながりが

できていけば、西宮の地域にもっと関わろうという人が増えるのではないかと思う。
○委　員　ワーク・ライフ・バランスの施策だけいつも何だかふわっとした印象だが、社会全体が男性も女性も育児をして、男性も女性も社会参加できるのが一番いいが、一足飛びには進まないにせよ、そこに向かって少しずつ進んでいけばと思う。事業者の表彰をされているが、もう少し身近に、子育ての楽しさに気づいたお父さんの紹介などをしていただいて、今、子育てをしている世代のお父さんたちは割と育児参加されていると思うが、男性も女性もみんなで社会を支えていくということが日本にもうひとつ欠けているような気がするので、全世代に知らせていくようなことができればと思う。例えば市政ニュースでお父さんの育児の紹介をしたり、お父さんが楽しんでいる姿を見せたり、今まで男性はあまり子育てをしなかった世代の人にもその楽しさが分かってもらえるようなことができたらいいなと思った。

それから、お父さん同士のつながりについて、Zoomなども活用できると思うし、地域に出ていくことに関しては、地域のほうも変わっていかないといけないと思うが、働いているお父さんもお母さんも参加できるような地域になるように進めていけたら伝わっていくと思う。そんな広報について今後何かお考えはあるか。
●事務局　父親の育児参加に関する啓発広報をもっと積極的に行ってはどうかとのご意見で、私は個人的にも頭が痛いご指摘で、私自身ももっと育児に参加しなければならないと思っているところである。現時点でどのような形で今のご意見を実現させていけるかははっきり申し上げることはできないが、ご意見としてお聞きし、今後検討していきたいと思う。
○委　員　父親の家事参加は一つの方法ではあるが、ワーク・ライフ・バランスから言えば、まずは地域の中でも子育てできること、保育園で言えばほかのお母さんと支え合ったり、お迎えに行けないときはほかのお母さんに来ていただくこともあるし、そういうつながりであったり、核家族化の中でどのように頼れる人をつくっていくか、そのようなことがまず課題ではないかと思った。父親の家事も諸外国に比べると日本は非常に問題になるところだが、それだけではこれは解決できないので、中期の見直しのところでそのようなことも含めて、みんながよりよく子育て、あるいは子育て支援ができる形を考えていかないといけないのではないかと思った。

２点目は、今回の評価の話ではないが、コロナ禍の中でオンラインワークが非常に多くなり、ワーク・ライフ・バランスやどのようにつながりを持っていくのかということは考えなければいけないのではないかと思うので、ここは施策の中でもぜひ取り組んでいただきたいと思う。
●事務局　私もこの計画における重点施策８の位置づけについて非常に悩ましいと改めて感じている。社会全体で子育て支援を進めていくことは市の大きな責務であるが、ワーク・ライフ・バランスの推進といっても、各企業、事業者にも動いてもらわないといけないところがあり、市でできる施策には限界があると感じている。子育てに関するこの部局とは別に労働福祉に関する部局があり、その中でも働きやすいまちづくりプランという別の計画を策定してワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいるが、そちらも基本的には企業への啓発が中心になっている状況である。この分野については、

毎年皆さんから、もやもやするというご意見をいただいているので、次の計画を策定する際の本当に大きな検討事項だと感じている。
○委　員　「父子対象事業の拡充」について、そもそも子育て総合センターなどに来る父親は育児に積極的な人だと思うが、そこに来るに至るまでにもっと意識が高くなる父親になるために、育児に参加するものなんだよということを意識づけするような啓発はされているか。父子手帳にもそういうことは書かれているのか。
●事務局　父子手帳は、今からパパになるお父さん向けに初歩の子育てについて書いている。本当に何も分からない初心者向けにつくったもので、それを読むと、自分ができることをやってみようとか、「パパのこれやります！宣言」として、例えばおむつ替えをする、お風呂に入れるなど、そんな宣言をするような記入欄があったり、ちょっとしたパパの取組を促すような仕掛けをつくっているので、そのあたりも積極的に活用しながら今後啓発していくと同時に、内容についても、今は基本的に初歩向けにつくっているが、さらに意識が高められるような内容を盛り込めたらと思い、他市の父子手帳も参考にして、今度は令和４年７月頃に発行予定なので、そこに向けて検討していきたいと考えている。
○委　員　父子手帳はどこかで拝見できるのか。
●事務局　母子手帳をお渡しするときに一緒に父子手帳をお渡ししている。それから、窓口でもお渡しをさせていただいている。
○会　長　以前に中身が改訂されたときに委員の方全員に配っていただいたので、またその機会があれば、委員の方にぜひ内容を見せていただけたらと思う。
○委　員　「父子対象事業の拡充」の実施内容を見ると、小学校に上がるまでのお子さんをお持ちのパパを対象にした事業かと思うが、小学校に上がったお子さんをお持ちのパパも子供と一緒に遊べるようなイベントが各校区で月に１回か２か月に１回あれば、この学校にはこういう友達がいて、パパはこんな人がいるとかが分かるので、そのようなイベントがあれば、学校を通じてどんどん情報が入ってくるとうれしい。
○会　長　今はそういった取組はあるか。
●事務局　親子で参加するイベントは、単発のものはあるが、確かに継続的に父親と参加してもらうような機会はなかなかないかもしれない。地域の中で子供会など様々な活動はあるが、それも恐らく地域によって活動内容や参加するお子さんの年齢も異なると思うので、市全体で小学生の親子を対象に継続的に行っている事業は、申し訳ないが、私のほうでは把握していない。
○委　員　保育園時代は送り迎えがあるので、お友達のパパやママにもご挨拶する機会があるけれども、小学校に上がるとそれがぱたっとなくなる。お友達の名前は聞くけれども、どういう友達なのか分からないし、親御さんのこともちろん分からない。新しいお友達ができても親同士の交流を持つ機会は難しい。なので、例えばこの小学校の１年生と２年生が対象の親子のイベントがあるから気軽に参加してねということができたら、保育園や幼稚園から上がったお友達もどんどん仲よくなっていけるのではないかと思った。
○会　長　就学前に何かのきっかけでつながることによって、地域でのつながり、家庭

同士のつながりができていくと、小学校でもずっとつながっていくかもしれないと思う。

**子ども・子育て支援プランの評価の総まとめ**

○委　員　評価に関して、ＢをＡにしましょうという話にはならなかったので、この見直しを含めてどうするのか、委員から意見が出た部分を参考資料のような形でまとめられて具体的に取り組んでいくのか、そのあたりの流れをどうするつもりなのかが分からないままで全体の評価はしにくいなと今感じている。
●事務局　昨年末と本日の２回にわたって、各施策に関するご意見と評価方法に関するご意見もたくさん頂戴した。そのあたりは来年度に向けて改善できるところは改善していきたいと考えている。
　自己評価のＡ～Ｄについては、基本的には各担当課における自己評価なので、この場でこれをＡにしようかとかＣにしようという議論ではなく、皆様に参考いただくものだと思っている。この会の中でＡ～Ｄの評価が必要だということであれば、そのあたりは来年度に向けて考えていきたいと思うが、一つ一つを４段階で評価していくことも難しいと考えているので、あくまでも進捗状況を図る上での目安にしていただいたらいいかと思う。評価方法については来年度以降の課題とさせていただく。
○会　長　実は、以前に委員が◎、○、△をつけていたが、中身がいろいろで、全体を◎とするのか○とするのかはすごく難しいことだったので、４段階評価を委員がつけることはやはりなかなか難しいと思う。今回は、それぞれの担当部署の方々が１年を振り返って自己評価をつけ、委員の方々に内容を見ていただき、Ａ～Ｄに関しては参考にして評価をする方法でやってきた。それについては、どういう自己評価をされているのかという参考資料としてはよかったのではないかと私は個人的に思っている。いろいろな課題を来年度改善していきながら、より良い方法を探っていただけたらと思う。
○委　員　今回は市の方が自己評価でつけられたのだが、そうなるとやはりＢが一番つけやすいのかなと感じる。このコロナ禍で市の職員の皆さんにはすごく頑張っていただいて、私たち子育て支援の人間も、今後どうしていけばいいか、次回の集まりにはどういうふうにしていけばいいかを毎月考えながら子育て支援しているので、市の方も一緒だと思う。そんな中で、来年度はこれを頑張ろうとか、これなら絶対Ａにできるというものがあれば、私たち子育て支援者もＡになるように一緒にやっていきたいので、今年はこれだという基準があると私たちもやりやすくなるかと思う。
○会　長　評価に関しては、委員からの貴重な意見を次年度あるいは今年度どのように生かしていくかが一番重要なところで、今回は「検討している」というところでご指摘もあったが、具体的にこのように進めているとか、ここに重きを置いてやっているということを示していただくとより分かりやすいのではないかとのご意見だと思う。資料の作り方についても意見があったが、前年度の意見にどのぐらい対応しているかについてもう少し具体的に書いていただいてもいいのかなと感じた。
○委　員　重要施策６・７についての報告は別の機会でいただけるのか。それを見た上で、施策全体が理念に沿っているかについての振り返りも必要かと思うので、またよろ

しくお願いする。

●事務局　重点施策６・７に関しては、この子ども・子育て会議とは別に、社会福祉審議会児童福祉専門分科会という別の会議体があり、１月26日水曜日に開催して評価いただいたところである。どのようなご意見が出たかについてはまた改めてこの会議でもご報告したいと思うが、簡単にご報告すると、まず資料集24・25ページ、重点施策６「子供の貧困対策及びひとり親家庭支援の充実」について、24ページで「学習・進学の支援」として、ひとり親家庭支援または生活困窮世帯を対象にした学習支援事業を掲載している。こちらに関しては、現在中学３年生を主な対象として実施している事業だが、中学２年生・１年生と対象学年を引き下げていってほしいであるとか、高校入学後についてもしっかりフォローしてほしい、ヤングケアラーへの対応が課題であるなどのご意見をいただいている。

25ページ、（２）「生活の支援」の「スクールソーシャルワーカーの拡充」では、現在、各中学校区を拠点にしてスクールソーシャルワーカーを５名配置しているが、これをもっと増やしていってほしいとのご意見を頂戴している。

次に、28・29ページの重点施策７「児童虐待防止対策の充実」に関しては、職員１人あたりの対応件数が多いということもあり、職員をもっと増やしていくべきである、また、将来的には児童相談所との人事交流なども検討してほしい、さらに児童虐待防止対策にあたっては、関係機関ともより一層連携を強化してほしいなどのご意見をいただいている。また改めて子ども・子育て会議で報告したいと考えている。

〔午後４時49分　閉会〕

【委員出席者名簿　15 名】

| 所属団体・役職名等 | 氏　　名 |
|---|---|
| 西宮市青少年愛護協議会<br>夙川地区青少年愛護協議会 会長 | 奥　光男 |
| 西宮市私立幼稚園連合会 会長 | 栫井 政裕 |
| 西宮市地域自立支援協議会こども部会<br>部会長 | 神谷　宣 |
| 株式会社チャイルドハート 代表取締役 | 木田 聖子 |
| 西宮労働者福祉協議会 特別理事 | 久城 直美 |
| 公募委員 | 後藤 希実子 |
| 神戸女子大学健康福祉学部 准教授 | 曽田 里美 |
| 社会福祉法人神戸ＹＭＣＡ福祉会 | 谷川　尚 |
| 関西学院大学教育学部 教授 | 橋本 祐子 |
| 西宮市私立保育協会 会長 | 藤原 和子 |
| 甲南大学マネジメント創造学部 教授 | 前田 正子 |
| 転勤族ママ＆キッズ探検隊 in 西宮 代表 | 松村 真弓 |
| 西宮市民生委員・児童委員会 理事 | 諸戸 大護 |
| 親と子のほっとスペース<br>「たんぽっぽひろば」 施設長 | 安田 知津子 |
| 公募委員 | 山本　樹 |

【事務局出席者名簿　12 名】

| 所属・役職 | 氏　　名 |
|---|---|
| 子供支援総括室長 | 小島　徹 |
| 子供支援総括室参事(計画推進担当) | 塚本 英樹 |
| 子育て支援部長 | 緒方　剛 |
| 子供家庭支援課長 | 三桝 浩一 |
| 子育て事業部長 | 伊藤　隆 |
| 保育幼稚園支援課長 | 草野 一郎 |
| 保育入所課長 | 秋山 一枝 |
| こども未来部長 | 大神 順一 |
| 子育て総合センター所長 | 海部　康 |
| 健康福祉局 保健所 地域保健課長 | 塚本 聡子 |
| 【教育委員会】 | |
| 教育委員会参与(教育政策推進担当) | 岡崎 州祐 |
| 学校支援部 学校改革課長 | 河内　真 |
| | |
| | |